

グローバル化社会における日本の伝統文化の実態 ～長野県の大学生を中心とした意識調査から～¹

せん けい こう
詹 桂 香 (Zhan Guixiang)²

はじめに

日本社会は経済・貿易の発展と共に、日増しにグローバル化が進んでいる。国際理解、異文化コミュニケーション、多文化共生共存などのグローバルを志向する言葉が日常会話の中に飛びかっている。その上に、2020年夏季五輪の開催都市を決める国際オリンピック委員会(IOC)総会がブエノスアイレスで開かれ、IOC委員の投票で2013年9月7日(日本時間8日)、東京が選ばれた。1964年以来56年ぶりで、2回目の開催はアジアで初めてとなる。日本は再び世界から注目され、国際化・グローバル化などのような文化の多様化と同時に、日本の自国文化のオリジナリティの発信も世界から求められている。従って、今後、如何に日本らしさをだすのかという文化面から見ると、国際的にも、国内的にも、自らの日本文化を、特に日本の歴史や民族性を代表する典型的な日本の伝統文化を、積極的に自己発信せざるをえなくなる。

辞書を引いてみると、「伝統」とは、「ある民族・社会・集団の中で、思想・風俗・習慣・様式・技術・しきたりなど、規範的なものとして古くから受け継がれてきた事柄。また、それらを受け伝えること。」³ あるいは、「ある集団・社会において、歴史的に形成・蓄積され、世代をこえて受け継がれた精神的・文化的遺産や慣習。」⁴ということである。

日本の伝統と言え、日本の風土に培われてきた貴重なものは、時代から時代へ、人から人へ、と脈々と受け継がれてきたのである。歴史や文化の豊かな日本では、伝

¹ 本稿は、2014年北京社会科学基金・『儒家家族倫理の日本本土化及び影響研究』プロジェクト(番号：14LSB009)に基づいた研究成果である。

² 平成30年度上田女子短期大学外国人特別研究生・北京第二外国語大学日本語学院副教授

³ 小学館デジタル大辞泉。https://kotobank.jp/word 2018.7.15閲覧

⁴ 大辞林 第三版。同上、2018.7.15閲覧

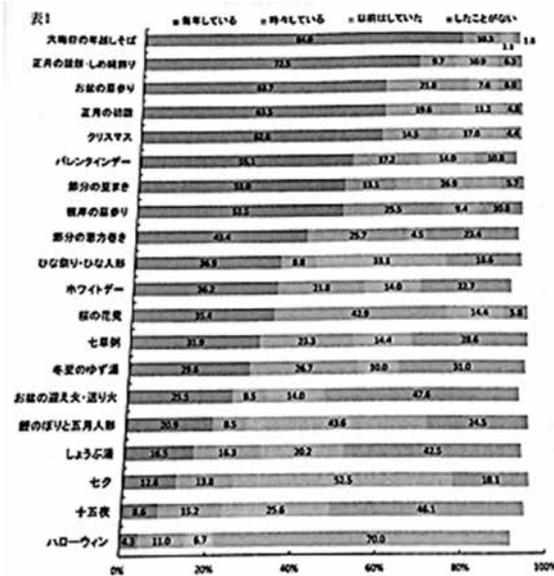
統は空気のように存在していて、人々が日常の中で呼吸しているかのようでもある。しかしその一方では、「伝統とは何だろう。」「伝統文化を残す理由はあるの?」「利便性が低いなら、衰退するのは当たり前だし、そのまま無くなってもいいんじゃない?」などという議論が繰り返されていることも事実なのである。

「多文化共存」「文化の多様性」を主唱したグローバル化の進む中、日本の伝統文化は一体どのように位置づけられているかと、前から、ずっと興味を持ち続けてきた。現代化や情報化社会などの変化の激しい今日、古い風習はきっと変わったと思わずにいられないが、日本人の心を支えた伝統行事やしきたりなどが伝承されることにより、グローバル化が進む世の中で、日本人らしさを持ち出すということは、世界に日本の存在を実感させることができるのではないかと思われる。

そこで、2020年の東京オリンピック大会の開催を迎える前に、日本人が自国の伝統文化に対する認識や実践状況を把握するのは急務となっている。日本人の若者——特に次世代の中軸⁵ になる現役大学生を中心にして、日本の伝統文化に関する意識及び意識醸成への要因などを明らかにする必要がある。今回は、筆者が立地している長野県を中心にして調査を実施した。

とはいうものの、こうしたテーマは今までの社会調査の中では、実は殆ど問題にされることがなく、あまり調査されてこなかったといってもよい。文化の継承・伝承などの人間の行動や行為を理解していくために、無視しえない意識・見方などは重要な意味ももっていて、きちんとした社会科学的な調査が一度なされねばならない。今回の調査は、その意味で大変ユニークな試みであり、そこから得られた成果は、現代長野県の若者の伝統文化意識を理解・認識するための重要な資料となるだけでなく、長野県の民俗・文化・教育などの諸分野における研究にも、大きく貢献するものがあると思われる。

⁵ 文部科学省の「学校基本調査」と総務省統計局のe-Stat内「基幹統計から探す(統計分野表示)」から「学校基本調査」を選び、「年次統計」「統括表」から「就園率・進学率の推移」や「進学率」から必要な値を取り出して計算した結果を統計したものから見ると、21世紀に入ってから、日本人の若者は、ほぼ半数が高等教育機関に入り、大学教育を受けている。2017年度も前年度を上回って、57.3%の高い大学進学率に達していた。つまり、日本の社会人の大半は大学キャリアを持っている。大学生は若者世代の絶対大部分を占め、次世代の中軸として、活躍することが期待されている。そして、日本社会の将来に直接に影響をし、日本伝統文化の主な担い手だと言っても過言ではなからう。



そして、アンケート調査(付録)は、主に日本青少年研究所が編集した『縁起に関する意識と行動調査報告書』⁶(表1)を基にし、最も多くの日本人が行う行事及び割合を表2⁷にまとめ、時間の縦軸を主とした日本の典型的な伝統文化といえる年中行事(毎年同じ日に同じことが繰り返し行われる習俗)に従って、最も基本的であり、今でもよく行われているごく一般的な家庭行事を取り上げた。

その上、関連性のあるポイントを加え、12項目⁸を設問にした。それらの伝統知識及びしきたりが実際にどの程度知られているか、ということに注目してみたものである。また、どんな継承方法で身につけている

表2 毎年行っている行事

	項目	10～20代	平均
1	年越しそば	97.6%	97.4%
2	正月・鏡餅・注連縄	88.3	88.5
3	お盆(精霊馬)	92.4	93.1
4	初詣	89.4	93.5
5	節分の豆まき	91.8	93
6	ひな祭り	80.1	78.8
7	鯉のぼり	74.8	73

か、伝統文化などについて、どのように見ているのか。

⁶ 日本青少年研究所編『縁起に関する意識と行動調査報告書』日本青少年研究所 2013：P9

⁷ 日本青少年研究所編『縁起に関する意識と行動調査報告書』日本青少年研究所 2013：P97、103～106により、作成した

⁸ 回答者に分かりやすく戸惑わないように答えてもらうために、便宜上、各設問にすべて参考内容を付け加え、難読そうな言葉にも平仮名で読み方を振っておいた。

更に、今後日本伝統文化をどのように伝達するだろうか。それらを明らかにするために、2018年6月14日(木)～7月9日(月)にかけて、「長野県における大学生の伝統文化に関する意識調査」を実施した。伝統文化に関する認識には認識者の態度・意欲などの内因と家庭や学校、地域、メディアなどの外的要因に影響されるが、今回の調査結果からは、具体的なデータが読み取れた。本稿では、その結果を分析した上、長野県内における日本の伝統文化の現存状況を報告する。

【「長野県における大学生の伝統文化に関する意識調査」の概要】

2018年6月14日(木)～7月9日(月)にかけて、配布回収法で実施。調査対象は長野県における現役大学生421人(層化2段無作為抽出)で、98%にあたる412人から回答を得た。

<本稿の構成>

はじめに

1. 伝統文化に対する認識の実態
 2. 伝統文化に関する継承方法
 3. 伝統文化に対する見方・考え方
- 終わりに ～日本の伝統文化の今後～

1. 伝統文化に対する認識の実態

1) 認識度は低い。知っているようで知らない人が多い

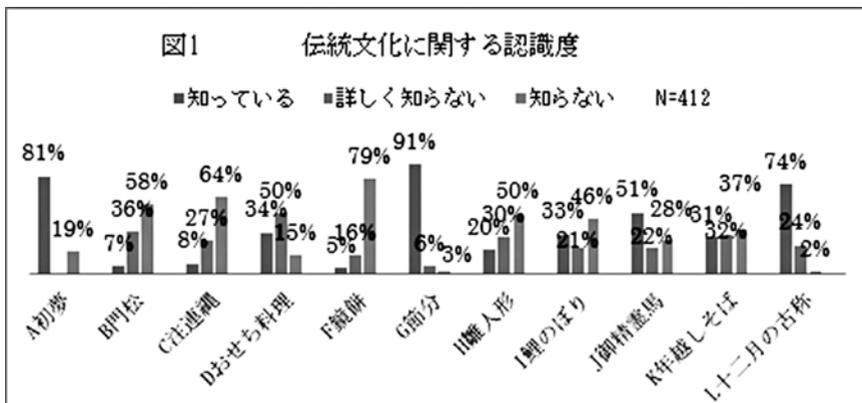
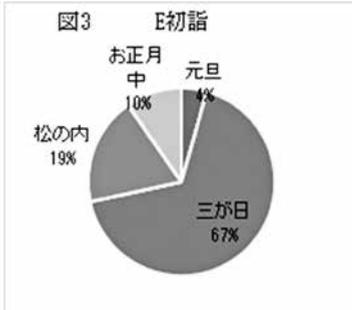
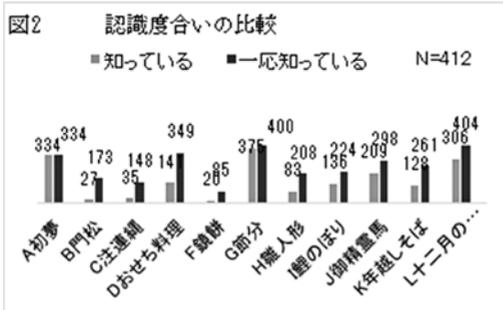


図1から見ると、伝統知識・しきたりについての認識度は最も高いほうが「G節分」(375人・91%)となっている。以下、「A 初夢」(334人・81%)、「L 十二月の古称」(306人・74%)、「J 御精霊馬」(209人・51%)などの順となっている。その他の7つ(E初詣は別に分析される)の項目は、すべて半分以下となっている。割合が最も低いのは「F鏡餅を三種の神器の鏡と見立てること」で、僅か20人・5%しか知らない。

全体として、取り上げられた11の項目(初詣を除く)について、対象者の認識度は低い結果となっている。

とはいうものの、一応知っている(知っている+詳しく知らない)(図2)から見ると、認識度はめっきり上がってくる。「F鏡餅を三種の神器の鏡と見立てること」は依然として低い、ほとんどの項目については、認識度の割合が半分を上回っている。これは、調査対象の長野県内の大学生は、伝統知識に対して、分かっているようではっきりと分からないという認識状態と言えるであろう。聞き取り調査でも、「一応見た目や形などは分かるけど、具体的に何だろう・なぜそうだろうと聞かれると分からない」という回答がほとんどであることが分かった。

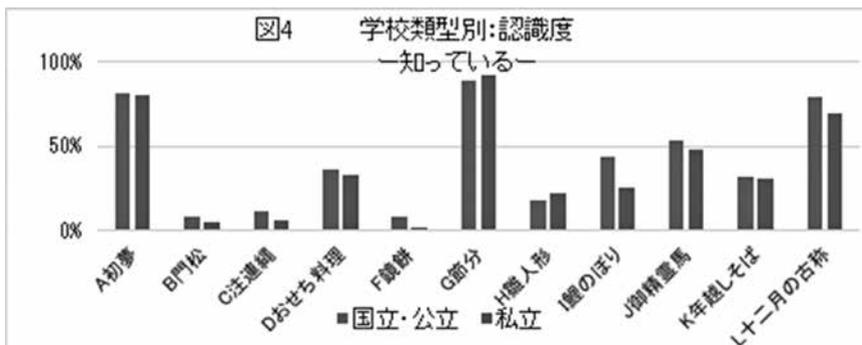


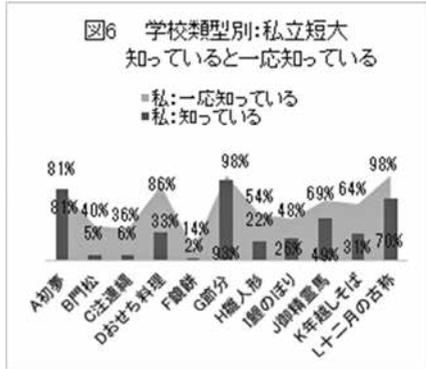
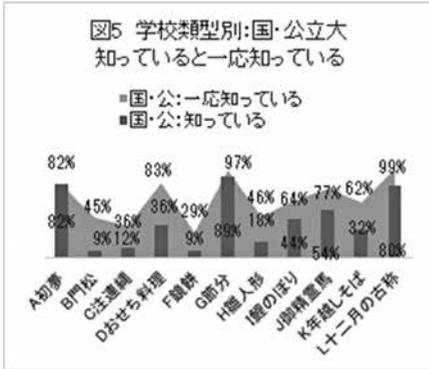
2) 初詣期間の多様化

「E初詣」(図3)についての調査結果から見ると、277人・67%の人が1月1日～3日(三が日)の間に、神社やお寺に初詣に行くことが明らかになった。地域性の影響もあり、77人・19%の回答者は松の内(1日～7日or～15日)を、40人・10%の人はお正月中を選んだ。僅か18人・4%の少数者は、元旦その当日に行くことと答えた。今後、初詣の期間はどのような傾向に流れていくかは、とても興味深い。

3) 学校類型と関係ない・偏差値とも無縁

伝統文化に関する認識状況は学校の類型によって変わるかという問題意識を持ち、クロス集計により、「国立・公立」(170人)と「私立」(242人)と分けて比較してみた(図4～6)。学校類型別に見ると、「E初詣」を除いた11項目について、「知っている」(図4)割合は、ほぼ一致している。更に、類型ごとに、「知っている」と「一応知っている」の変化から見ても、殆ど差がつかない(図5、6)。また、今回の調査結果では、伝統文化の認識度は、大学受験における偏差値とも無縁だということが判明した。

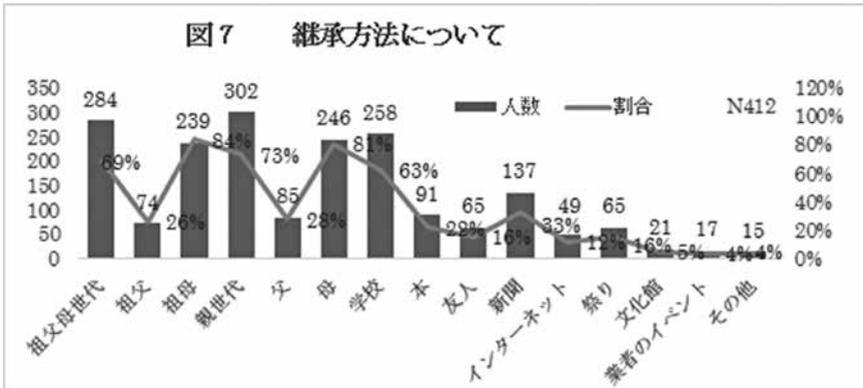




以上述べたように、アンケート調査表に挙げられた12項目の伝統文化については、全体として認識状況は分散され、はっきりと知っている事柄は、限られている。「詳しく知らない」部分を合わせて、「一応知っている」となると、比率が大幅に上がる。以上から、今回の長野県内の大学生向けの調査においては、伝統文化に関する認識状態は、学校類型とほとんど関係ないことが分かった。

2. 伝統文化に関する継承方法

1) 家庭・家族の影響が最も大きい 特に祖母と母の役割は圧倒的



以上の12項目の伝統知識としきたりは、どんな方法で知ったのかという伝統文化の継承方法についての調査結果を見ると(図7)、「祖父母世代の教え・見習い」284人・69%と「親世代の教え・見習い」302人・73%となっている。その中では、特に祖母239人・84% (祖父母世代からの割合)・特に母246人・81% (親世代からの割合)が最も高くなっ

ている。

家庭は、伝統文化が豊かな場だと言える。昔の名残もあり、時間の余裕もあり、行事やしきたりなどが分かる。家庭で身をもって行う。見本のような存在であり、教えるよりも自分がやっていることを見せて後代に覚えてもらう効果——次世代が次第に真似して覚えていくという昔ながらの家庭的文化である。ところが、経済の発展と女性の社会進出とともに、「男は外、女は内」という固定していた社会構造が変わり、共働きが普遍現象となるにつれて、両親とも家にいられる時間が少なくなるとともに、今後、家庭内の影響にも変化が起こるだろうと思われる。

2) 大学にも伝統文化の学習指導要領？

「学校で習いました」と答えた人は258人・69%である。幼稚園から中学校までは学校において給食が実施されており、年中行事に合わせて、生徒が自分でちらし寿司を作ったり、飾りをしたりして、「食育」を通して、見える伝統文化は身をもって感じ、覚えていく。しかし、大学に入ると、そういうことに触れるチャンスが少なく、更にやる気もなくなるし、形だけの伝統知識を身に付けたままである。したがって、上述のように大学生全体の認識度が低い結果になってしまうわけである。今後、もっと中身が分かるようなことを教授されるチャンスが求められている。そうなると、高校までの学習指導要領を大学の教育システムに取り入れる必要性を検討することになるのだろうか。

3) とうとう「本離れ」の影響は伝統文化にまで

伝統知識やしきたりなどの認識について、全体としては、認識度の割合が低い。図7から見ると、「本を読んで分かりました」のは91人・22%しかいないことがわかった。「本離れ」は、伝統文化の認識に随分影響をしているではなからうかと思われる。日本全国大学生生活協同組合連合会が全国の国公立の大学生を対象に実施している生活実態調査⁹によると、日本の大学生の2人に1人はまったく読書をしないことが判明した。伝統知識・しきたりなどは、一見して目に見えるものようであるが、実はその形に潜んだ見えない部分が日本伝統文化の真の姿ではなからうか。一方で、伝統知識・しきたりに関する本は毎年出版されている(参考文献参照)。読む気さえあれば、調査表に挙げられた設問は分かるはずである。しかし、現在の日本の大学生は、半分近く

⁹ 『読売新聞』朝刊平成30年1月13日付の記事

の人が一日に読書に使う時間はなんと0分間であったそうである。また、去年行われた日本全国世論調査によると、「一年間で図書館を利用したことがある人は全体の40%で、利用しなかった人は59%だった」。¹⁰ 活字離れの悪影響は、PISA¹¹ 学習到達度調査の結果だけに限らず、とうとう日本の「社会において、歴史的に形成・蓄積され、世代をこえて受け継がれた精神的・文化的遺産や慣習」の伝統文化にまで及んできたようである。

4) インターネットは伝統文化と無縁?

「インターネットで調べて分かりました」が49人・12%であることに驚いた。上述と同じ大学生生活実態調査¹² では、「スマートフォンを1日に1時間以上利用する学生は9割に達している」。伝統メディアである本・新聞・テレビなどの利用は、インターネットの普及と同時に圧倒的に減っている。

聞き取り調査では、今はまさに「インターネット=スマホ」の時代となっていると実感する。更に、スマホの使い方を分類すると「友人との連絡」、「情報キャッチ」、「アニメ・漫画などの動画鑑賞」、「学習」などである。

5) 伝統の溢れる国・日本という世界イメージとの間に、ズレが激しい

図7に表したとおり、祭(16%)や商店・業者などが催したイベント(4%)などを通して、伝統知識を見覚えた長野県の大学生が少ない。聞き取り調査によって裏付けると、「たいした祭はない」、「近くに大きいデパートはない」などの理由が挙げられる。一方、祭りの日に町中には大変な人出で、とても賑やかだし、家族や友人と一緒にお神輿や花火などを見られたり、屋台で美味しい食べ物を買ったりして、実感・体験できるので、祭に参加したいという考えを持っている人は多い。

こう見ると、伝統文化を継承する主な手段と方法とは、家庭であることがわかった。その中では、特に祖母・母の影響が最も大きい。その次は学校から教わった場合である。ところが、情報社会に欠かせないと言えるほどのインターネットの利用は意外に少なかった。更に、各地域において時期ごとに行われる伝統行事の多いことで、世界

¹⁰ 『読売新聞』朝刊平成29年10月30日付の記事

¹¹ 学習到達度調査(PISA)とは、日々の学習で得た知識や技能をどれくらい実生活に活かせるか、その応用力を測る調査のこと。対象となるのは義務教育を修了した15歳の児童。「読解力」「数学的応用力」「科学的応用力」の3つの分野をみる。OECD(経済協力開発機構)において、3年ごとに実施する。

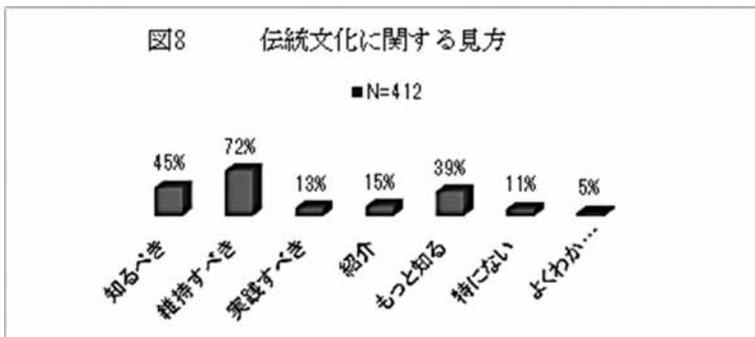
¹² 『読売新聞』朝刊平成30年1月13日付の記事

によく知られる日本の祭りは、調査結果から見ると、対象者の伝統文化認識への影響は、思いのほか少ないことが分かった。

3. 伝統文化に対する見方・考え方

1) 「知る」より「維持する」のが優先

伝統文化に対して、どのように見ているかについての設問である(図8)。「伝統文化を大切に維持していくべき」(296人・72%)、「意義がありますので、知るべき」(185人・45%)、「伝統文化をもっと詳しく知りたい」(159人・39%)、「伝統文化をほかの人に紹介して、分かってもらいたい」(63人・15%)、「伝統文化を日常生活の中で実践すべき」(53人・13%)、「伝統文化というものはあくまでも文化の1種類なので、必要な時に調べて分かればいい、特に覚える必要はない」(45人・11%)、「よく分かりません」(20人・5%)の順となっている。



伝統文化に対する見方・考え方が、文化の生存・継承・伝達などにおける重要な決まり手であろう。72%の対象者は「伝統文化を維持するべき」だと答えたのに対して、なんと全体の半分以下の45%の対象者は「意義がありますので、知るべきだ」と答えた。その間には27%の差がある。つまり、「昔から続いているものだから、これからも大切にしていすべき」、「伝統文化を維持するべき」と思う296人の内には、なんと37.5%の111人が「知るべきではないもの」とするのである。どう見ても矛盾している考え方であろうと思われる。が、その後の聞き取り調査において、「身近にないから、別に知るべきじゃないが、なくなるとさびしいので、矛盾している。」「知りたい人が知ればいいと思う」「あまり興味がない」などの理由を窺った。

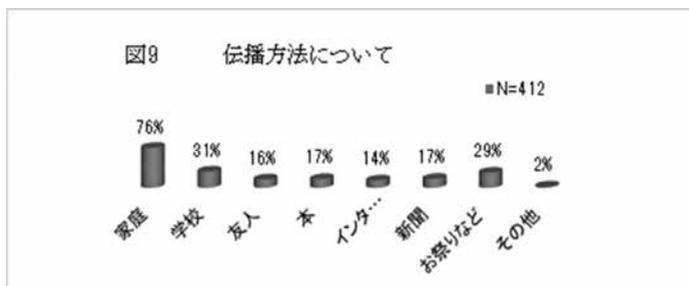
2) 主体性の欠如・伝承意欲の低迷

「維持するのに、知らない」という矛盾する現象が見える。まさに、日本の伝統文化は自分と関係なさそうで、ただの他人事のように考える人は全体の27%も占める。こういう伝統文化に対する無関心の態度は、主体性に欠けていると思われる。「伝統文化を日常生活の中で実践するべき」かについての答えは、13%と低い割合だった。知識不足の影響もあるが、上述した「主体性の欠如」による影響の方がもっと大きいのではなかろうか。

調査対象の半分を下回ったが、39%の人が今後伝統文化をもっと知りたいと思っている。それに対しては、「日本の伝統文化を他の人に紹介して、分かってもらいたい」の回答は、15%しかない。今回の調査からして、長野県内の大学生は、あまり「伝統文化を日本の誇りとして見ていない」傾向があると分かった。グローバル化の進む日本国内において、自国文化の衰退する証拠ではないだろうか。

終わりに～日本の伝統文化の今後～

情報入手が便利な現代社会においては、今後如何に伝統文化を伝えるかなどという伝播方法を把握したいための設問である。結果から見ると(図9)、「家庭で日常生活



を通して自然に覚えていきたい」という答えのほうが、ダントツに多く312人もあり、全体の76%を占めている。その次は、「学校で習いたい」(127人・31%)、「お祭りやイベントなどに参加して覚える」(118人・29%)、「本を読んで勉強する」(69人・17%)、「新聞・テレビ・ラジオなどを通して習う」(71人・17%)、「友人や知り合いなど周りの人から教えてもらいたい」(66人・16%)、「インターネットを通して習う」(58人・14%)、その他(お年寄りから聞いたなど)(9人・2%)の順となっている。

対象のほとんどは(76%)、家庭内で食事などの日常生活の中から、身に付けたいと

期待しているようである。家庭への依存度が、最も高い。それから、学校、地域で行う祭りなどにも依存度が集中している。これらに反して、読書、伝統メディアたる新聞やテレビの利用と、情報社会の象徴であるインターネットへの依存は、ほぼ同じぐらい低い比率で一致している。

伝統文化意識に影響を与える主な原因は、大学生自身に伝統知識の足りないことや、伝統文化に対する無関心によって、主体性の欠けること、実践参与意欲及び伝承意欲の低迷などという内的要因である。その対応策として、もっとも大切なのは、よい社会環境を作ることである。本調査の結果分析を通して、分かったことは、次のとおりである。

- 1) 家庭に対して、依然として依存度が高い。共働きの家庭構造に変化し、今後日本人のライフスタイルと食生活が変わると思われる。そこで、更に伝統文化に影響を与えていくにちがいない。
- 2) また、学校の教育にも、伝統文化の取入れなどの新たな課題が与えられている。
- 3) 地域においては、観光や商売の繁盛のため、それらをイベント化するような新しい伝統の生産の可能性がある。今後もっと若者の参与意欲を引き出し、時代の流れに合う若者向けの祭りやイベントが求められている。地域おこしにしても、次世代の中軸の若者の力を借りないと、なかなか進むには難しい。
- 4) 大学生には普及率が100%になっているスマートフォンは、機能より、もっと情報・データの中身を工夫する必要がある。

以上では、「長野県内における大学生の伝統文化に関する意識調査」の結果をまとめて報告してみた。調査概要に表示したとおりに、伝統文化の認識状況を測るにあたり、その認識状態をはっきり表したいため、答えの選択肢もほとんど3段階評価(1. はい、知っている；2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているも含む)；3. いいえ、知らない)という3段階評定尺度法を用いた。というのは、調査対象者に迷わずに自己の認識状況を答えてもらえるためであり、後の分析においても比較が容易になるからである。更に、分析において、より正確によりはっきり回答を把握するため、アンケート調査だけではなかなか見出せない部分を聞き取り、もっと詳しい調査を行った。

とはいうものの、人間の意識・見方を通して、文化の継承・伝承を把握していくには、そんなに簡単にできることではない。「長野県内における大学生～」といいながら、調査対象の412名の学生の中には80名の長野県外出身者を含めていた。しかも、一言

で「伝統文化」といっても、日本国内には、地域毎に習慣・しきたりの差がかなりあると思われる。今回の調査は、あくまでも試みたものである。今後、もっと調査範囲を広げ、より普遍性がある質問を設定し、調査を行い、研究を深めていきたいと思う。

【調査概要】

1. 調査目的

長野県における大学生の日本の伝統文化に関する意識及び意識醸成を調査する

2. 調査時期

2018年6月14日(木)～7月9日(月)

3. 調査対象

長野県における現役大学生421人

4. 調査方法

配布回収法

5. 回答数(率)

412人(98%)

☆ 注：統計率は整数に統一している。以下も同様。

一 伝統文化に関する認識 — (○は1つだけ)

A. 縁起のいい初夢といえ、[「一富士二鷹三茄子」]を思い浮かべます。

1. はい……………81%

2. いいえ……………19%

B. 年神を家に迎え入れるための依り代(よりしろ)である門松では松以外に竹を飾る理由をご存知ですか。(松：常緑で永遠の命を表す；竹：まっすぐに育つ様は生命力の強さを表す)

1. はい……………7%

2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているのも含む)……………36%

3. いいえ……………58%

- C. 注連繩しめなわを29日と31日に飾ることは縁起が悪いとされる理由をご存知ですか。
(29日：二重の苦；31日：一夜飾りといい、迎え入れる神様に失礼である)
1. はい……………8%
 2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているも含む)……………27%
 3. いいえ……………64%
- D. おせち料理は重箱に詰められるのは「めでたさを重ねる」という意味を表しますが、その中の海老、黒豆、蓮根が表すそれぞれのめでたい意味をご存知ですか。(海老：長いひげをはやし、腰が曲がるまで長生きすること；黒豆：邪気払いの意味と、黒く日焼けするほどマメに、勤勉に働けるようにとの願い；蓮根：穴が空いていることから、将来の見通しがきくようにとの願い)
1. はい……………34%
 2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているも含む)……………50%
 3. いいえ……………15%
- E. 初詣はいつまでに行けばいいと思いますか。
1. 元旦(1/1) ……………4%
 2. 三が日(1/1～1/3) ……………67%
 3. 松の内(1/7 or 1/15まで)……………19%
 4. お正月中(1/31まで) ……………10%
- F. お正月に神仏に供える餅を「三種の神器」の鏡(餅)と見立てますが、三種の神器の他の二つ、八尺瓊勾玉やさかにのまがたまに見立てた物が橙、天叢雲劍あまのむらくものつるぎに見立てた物が串柿であるということをご存知ですか。
1. はい……………5%
 2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているも含む)……………16%
 3. いいえ……………79%
- G. 節分の日に一般的には「鬼は外、福は内」と声を出しながら福豆を撒くほかに、年齢の数だけ(もしくは1つ多く)豆を食べる厄除けを行う習慣をご存知ですか。

- 1. はい……………91%
- 2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているのも含む)……………6%
- 3. いいえ……………3%

H. 「雛人形をしまうのが遅れると、婚期が遅れる」とよく言われますが、「片付けがちゃんとできないようでは、きちんとした女性になれず、お嫁さんにもなれませんよ!」と、しつけの意味を込めての言い伝えなのだということをご存知ですか。

- 1. はい……………20%
- 2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているのも含む)……………30%
- 3. いいえ……………50%

I. 鯉のぼりが立身出世の象徴となったのは、鯉が竜門を登り切り、竜になったことにちなんでつくった中国の物語「鯉の滝登り」からできたことをご存知ですか。

- 1. はい……………33%
- 2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているのも含む)……………21%
- 3. いいえ……………46%

J. お精霊馬しょうりょううまは全国でお盆の行事の1つとして行われています。キュウリは足の速い馬として見立てられ、あの世から早く家に戻って来られるように、ナスは歩くのが遅い牛として見立てられ、少しでもこの世から帰るのを遅らせようとしたとされているのはご存知ですか。

- 1. はい……………51%
- 2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているのも含む)……………22%
- 3. いいえ……………28%

K. 大晦日に年越しそばを食べる理由をご存知ですか。(蕎麦は他の麺類よりも切れやすいことから「今年一年の災厄を断ち切る」という意味から)

- 1. はい……………31%
- 2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているのも含む)……………32%
- 3. いいえ……………37%

L. 一年の十二ヶ月の古い読み方はご存知ですか。

[睦月(むつき)・如月(きさらぎ)・弥生(やよい)・卯月(うづき)・皐月(さつき)・水無月(みなづき)・文月(ふみつき)・葉月(はづき)・長月(ながつき)・神無月(かんなづき)・霜月(しもつき)・師走(しわす)]

1. はい……………74%
2. 詳しく知らない(一部だけ覚えているも含む)……………24%
3. いいえ……………2%

— 伝統文化に関する継承方法 — (○はいくつでも)

1. 祖父母世代の教え・見習い……………69%
特にどちらの影響が大きいですか
 - 1-1 祖父(祖世代割合)……………26%
 - 1-2 祖母(祖世代割合)……………84%
2. 親世代の教え・見習い……………73%
特にどちらの影響が大きいですか
 - 2-1 父(親世代割合)……………28%
 - 2-2 母(親世代割合)……………81%
3. 学校で習いました……………63%
4. 本を読んで分かりました……………22%
5. 友人や周りの人に教えてもらいました……………16%
6. 新聞やテレビやラジオなどを通して知りました……………33%
7. インターネットで調べて分かりました……………12%
8. お祭りに参加して分かりました……………16%
9. 文化館や公民館などの講座に出て分かりました……………5%
10. デパート、商店街などの商業施設のイベントや商業宣伝を通して分かりました……………4%
11. その他()……………4%

— 伝承文化に対する見方・考え方 — (○はいくつでも)

1. 伝統文化は意義がありますので、知るべきです……………45%

2. 伝統文化を大切に維持していくべきです……………72%
3. 伝統文化を日常生活の中で実践するべきです……………13%
4. 伝統文化をほかの人に紹介して、分かってもらいたいです……………15%
5. 伝統文化をもっと詳しく知りたいです……………39%
6. 伝統文化というものはあくまでも文化の1種類なので、必要な時に
調べて分かればいい、特に覚える必要はないと思います……………11%
7. よく分かりません…………… 5%

— 伝統文化に関する伝播方法 — (○はいくつでも)

1. 家庭で日常生活を通して自然に覚えていきたいです……………76%
2. 学校で習いたいです……………31%
3. 友人や知り合いなど周りの人から教えてもらいたいです……………16%
4. 本を読んで勉強します……………17%
5. インターネットを通して習います……………14%
6. 新聞・テレビ・ラジオなどを通して習います……………17%
7. お祭りやイベントなどに参加して覚えます……………29%
8. その他()…………… 2%

サンプル構成

全体(人・%)		男	女	計(人・%)
170(41%)	国立大学	24	31	55
	公立大学	47	68	115
242(59%)	私立大学	0	242	242
412(100%)		71	341	412
100%		17%	83%	100%

【参考文献】

- 火田博文(2018)『日本のしきたりが楽しくなる本：お正月からお祭り、七五三、冠婚葬祭』彩図社。
- 洋泉社(2018)『あなたの暮らしを豊かにする日本のしきたり』洋泉社。
- トキオ・ナレッジ著(2017)『日本人のしきたりいろは図鑑』宝島社
- 辻川牧子(2016)『日本のしきたり 和のこころ：歳時記に込められた知恵とたしなみ』ロングセラーズ。
- 山口謡司(2015)『孫にそっと教えたい日本の美しい言葉としきたり：正しい日本語や行儀が身につく77の教え』徳間書店。
- 小泉茉莉花(2015)『運がよくなる日本のしきたり』三笠書房。
- 山本三千子(2015)『日本人が知っておきたい和のしきたり』三笠書房
- 高田真弓(2014)『マンガと絵で見る日本のしきたり便利帳』日本能率協会マネジメ
ントセンター。
- 中村義裕(2014)『日本の伝統文化しきたり事典』柏書房。
- 飯倉晴武著：藤島つとむ絵(2014)『日本のしきたり：伝統行事の知識と心』宝島社。
- 洋泉社(2013)『入門日本のしきたり』。
- 徳間書店(2012)『日本のならわしとしきたり：日本および日本人の原点』。
- 渋谷申博(2012)『知っておきたい日本のしきたり：大切にしたい和の暮らし』日本文芸社。
- 永田美穂監修(2012)『図説面白くてためになる！日本のしきたり：意外な由来から正しい作法まで』PHP研究所。
- 酒井信彦監修(2011)『心にひびく日本のしきたり』講談社。
- 神崎宣武(2008)『しきたりの日本文化』角川文庫文芸出版社。
- 伝統文化推進会(2007)『日本の伝統としきたり』ぶんか社。
- 日本の暮らし研究会(2007)『日本人のしきたりがよく分かる本』PHP研究所。
- 味元敬子(2007)『新年のしきたり：門松・初詣・お年始など』海象社。
- 武光誠監修(2007)『常識として知っておきたい日本のしきたり：図解版』廣済堂出版。
- 丹野顕(2007)『常識として知っておきたい日本のしきたり』PHP研究所。
- 新谷尚紀(2007)『和のしきたり：日本の暦と年中行事』日本文芸社。
- 三橋健(2007)『図説子供に伝いたい日本人のしきたり』家の光協会。

石田繁美(2005)『家庭で楽しむ日本の行事としきたり』ポプラ社。

飯倉晴武(2003)『日本人のしきたり：正月行事・豆まき・大安吉日・厄年』青春出版社。

日本青少年研究所編(2013)『縁起に関する意識と行動調査報告書』日本青少年研究所。

中京大学社会科学研究所編(2015)『文化の継承と現代テクノロジーの展開——技術アーカイブズの伝統と現在』創泉堂出版。

矢島妙子「伝播型祭りの展開における変容」『日本文化人類学会研究大会発表要旨集 2018(0)』116, 2018。日本文化人類学会。

21世紀職業財団(2017.9)『女性労働の分析～地域別にみた女性の就職状況 2016年』。

株式会社リベルタス・コンサルティング(2018)『「女子生徒等の理工系進路選択支援に向けた生徒等の意識に関する調査研究」調査報告書』内閣府委託調査。

【謝 辞】

外国人特別研究生として上田女子短期大学で学ぶ貴重な機会を与えて下さった小池明学先生に、心から感謝の意を表したいと存じます。

また、本研究を進めるにあたり、終始温かいご指導を賜りました上田女子短期大学大橋敦夫教授に心から感謝の意を表します。研究テーマから、研究進行日程、意識調査表の作成・準備・実施などにも常に大橋先生から貴重なご意見とご協力をいただきました。誠に有難く存じております。

さらに、研究倫理申請について、アドバイスをして下さい、また、意識調査の実施を快く許可・協力していただきました市東賢二教授にも心から御礼を申し上げます。

そして、調査を順調に進めるため、調査先に願いを出したり、推進手続きを行った、さらに、調査表の印刷まで協力して下さった同大学地域連携センターの越藤順子さんにも心から感謝いたします。

最後に、意識調査の実施を快くご協力いただいた花岡勉教授、斎藤直人講師、及び集計方法と構成にご意見を下さった長樽涼子准教授、「食育」について、アドバイスを下さった増田栄美准教授などの諸先生方と意識調査に回答して下さった学生の方々に感謝の意を表します。